

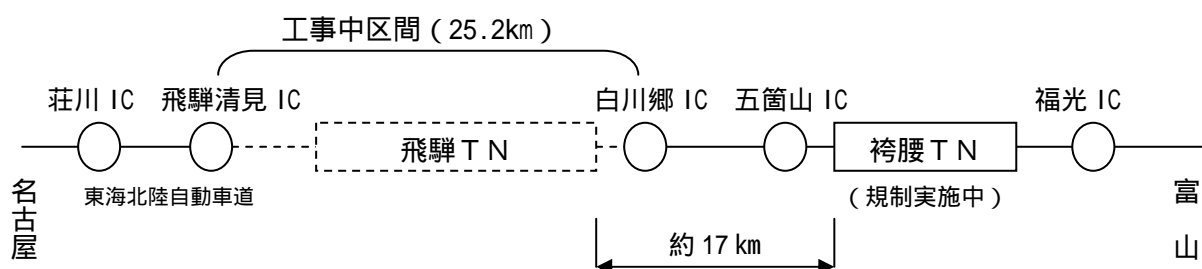
## 飛騨トンネルにおける危険物積載車両の通行の規制について

### 1 規制対象となる長大トンネルの要件適合性

危険物積載車両の通行の規制については、道路法第46条第3項において水底トンネル等の構造を保全し、又は水底トンネルにおける交通の危険を防止するため危険物積載車両の通行を禁止し、又は制限することができるものとされている。

水底トンネルに類するトンネルについては、道路法施行規則第4条の9において、水際にあるトンネルで当該トンネルの路面の高さが水面の高さ以下のもの（水際トンネル）又は長さ5 km以上のトンネル（長大トンネル）とされている。

飛騨トンネルは、延長が10.7 kmであり、危険物積載車両の通行を禁止し、又は制限できる長大トンネルに該当する。



### 2 規制内容の基本的考え方

飛騨トンネルの規制内容を検討する際に、考慮すべき法制度、安全性、社会・経済的影響に関しては以下のとおりである。

各危険物関係法令等については、近年大きな状況の変化がないこと  
延長の似通っている恵那山トンネル等と同程度の設備を有すること  
高速ネットワークでの危険物積載車両の迂回路が存在すること

〔 中部・関西圏 北陸地方の迂回路：北陸道  
関東圏 北陸地方の迂回路：中央道・上信越道・北陸道 〕

以上のことから、通行の禁止・制限が実施されている他のトンネルと同様の規制内容とすべきものと思慮される。

なお、東海北陸自動車道には、飛騨トンネルに隣接して既に危険物積載車両の通行の禁止又は制限が実施されている、袴腰トンネル（延長5.9 km）があり、その通行の禁止・制限の内容は他の長大トンネルと同様である。

## 参考

- ・道路法（昭和二十七年六月十日法律第百八十号） - 妙 -  
（通行の禁止又は制限）

### 第四十六条 （略）

- 3 道路管理者は、水底トンネル（水底トンネルに類するトンネルで国土交通省令で定めるものを含む。以下同じ。）の構造を保全し、又は水底トンネルにおける交通の危険を防止するため、政令で定めるところにより、爆発性又は易燃性を有する物件その他の危険物を積載する車両の通行を禁止し、又は制限することができる。

- ・道路法施行規則（昭和二十七年八月一日建設省令第二十五号） - 妙 -  
（水底トンネルに類するトンネル）

第四条の九 法第四十六条第三項に規定する国土交通省令で定める水底トンネルに類するトンネルは、水際にあるトンネルで当該トンネルの路面の高さが水面の高さ以下のもの又は長さ五千メートル以上のトンネルとする。